

神奈川県立図書館



平成 29 年度神奈川県立図書館県民公開講座

平成 29 年 12 月 20 日 (水)

14 : 00 ~ 15 : 30

神奈川県立図書館 4 階セミナールーム

# レコード鑑賞会



## ベーム最後の第九



ドミンゴの歌声とともに

### 本日の鑑賞曲

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

交響曲第 9 番 二短調 作品 125《合唱》

ジェシー・ノーマン (ソプラノ)、ブリギッテ・ファスベンダー (アルト)

プラシド・ドミンゴ (テノール)、ヴァルター・ベリー (バリトン)

ウィーン国立歌劇場合唱団

(合唱指揮 : ヴァルター・ハーゲン = グロル)

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

指揮 : カール・ベーム

1980 年 11 月 19 日 ~ 24 日録音

## 《鑑賞曲について》

# 交響曲第9番二短調 作品125 「合唱付」

(第1楽章 18:32、第2楽章 13:16、第3楽章 18:17、第4楽章 28:34)

作曲家:ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(Ludwig van Beethoven 1770~1827)

作曲:1818年、1822~24年2月

初演:1824年5月7日。ウィーンのケルントナートーア劇場。総指揮ベートーヴェン、実質指揮者は宮廷楽長ウムラウフ、コンサートマスターは、シュパンツヒ、独唱は、H.ゾントーク(sop.)、K. ウィンガー(alt.)、A. ハイツィンガー(ten.)、J. ザイペルト(bar.)。

出版:1826年8月末、マインツとパリのB. ショット社、アントワープのA. ショット社よりスコア譜、パート譜およびピアノ編曲版による第4楽章のボーカル・スコア譜同時出版。

献呈:プロイセン国王フリードリヒ=ヴィルヘルム3世に

この作品は生涯にわたってベートーヴェンが心に抱いてきたものを具現化したものである。より具体的に言えば、ベートーヴェンが構想した4つの目標(古くは1792年、新しいもので1812年に構想したもの)を1823年の終わりになって、ようやく、総括して実現したものである。その4大目標とは、1)シラーの《歓喜に寄す An die Freude》に音楽をつけること、2)その頌歌に文字通りの意味で旋律をつけること、3)合唱でおわる交響曲の作曲、4)二短調の交響曲の作曲であった。

### 参考文献

- 『ベートーヴェン事典』 東京書籍 1999 (請求記号 762.34/102 相談カウンター 常置)  
『クラシック作曲家大全』 日東書院本社 2013 (請求記号 762.8/171 相談カウンター 常置)  
『ラールス世界音楽作品事典』 福武書店 1989 (請求記号 760.33/3 相談カウンター 常置)

## 《人物紹介》

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(Ludwig van Beethoven  
1770年12月16日?~1827年3月26日)

古典派から初期ロマン派の時代にかけて活動した最も重要な作曲家。ボンの宮廷歌手を父として生まれ、父や宮廷オルガン奏者のネーフェの指導を受けて、幼少時より才能を発揮し、ハイドンに才能を認められてウィーンの貴族社会に招かれ、技巧的で美しい演奏と優れた作曲の腕前を披露し、多くの後援者を得た。しかし、1812年には難聴が進行し、絶望と孤独感に襲われて創作意欲も低下し、自殺の危機まで迎えるが、これを乗り越えると精力的に創作に取り組み、晩年には運命を甘受して崇高な音楽を生み出した。

ベートーヴェンはハイドンやモーツァルトなどの伝統を受け継ぐだけでなく、他の様々な様式を取り込み、たくいまれな個性を磨き上げた作曲家であった。

### 参考文献

- 『クラシック作曲家事典』 学習研究社 2007(請求記号 760.33/15 相談カウンター 常置)  
『ラールス世界音楽人名事典』 福武書店 1989 (請求記号 760.33/2 相談カウンター 常置)

# カール・ベーム

(Karl Böhm, 1894年8月28日～1981年8月14日)

オーストリアのグラーツで生まれ、ウィーンで音楽を学ぶ。1917年にグラーツ歌劇場で指揮者としてスタートした。1921年にブルーノ・ワルターの招きでバイエルン国立オペラの指揮者となり、ワルターからモーツァルトの素晴らしさなどに関して影響を受けた。以後ハンブルク(1931～34年)、ドレスデン(1934～43年)などで音楽監督を歴任し、1943～45年と戦後復興となった1954～56年にウィーン国立歌劇場総監督を務めた後は、特定の歌劇場には束縛されず、ザルツブルク、バイロイト、メトロポリタンと世界的な活動を続けた。

彼の指揮は完璧さとの確かなテンポとバランスの良さという印象を与え、世界中で交響曲の指揮者と同様にオペラ指揮者として活躍し、特にモーツァルの権威として高い評価を得ている。

今回鑑賞するレコードを1980年11月に録音した後、1981年8月14日ザルツブルク郊外の自宅で亡くなった。

## 参考文献

- 『演奏家大事典』音楽之友社 1954(請求記号 762/128 相談カウンター 常置)  
『オックスフォードオペラ大事典』平凡社 1996(請求記号 766.1/179 相談カウンター 常置)  
『標準音楽辞典〔2〕 トワ、索引 新訂第2版』音楽之友社 2008(請求記号 760.33/10A/2 相談カウンター常置)

## ♪♪♪♪♪ カール・ベームに関する所蔵資料のご案内 ♪♪♪♪♪

カール・ベームに関する資料は図書、視聴覚資料ともに多数所蔵しております。そのうちの一部をご紹介します。視聴覚資料(CD、LP、DVD、レーザーディスク)は、音楽・映像コーナーで視聴(9:00～17:00)できます。  
\*カッコ( )内は、請求記号、配架場所、資料番号を表しています。

## 図書

『回想のロンド』カール・ベーム 著、高辻知義 訳、白水社、1970  
(762.4A/39 県立書庫 11757598)

カール・ベームの語りによる自叙伝。幼少期の思い出に始まり、音楽家としての歩みを、グラーツでのデビューから戦後のウィーン総監督時代まで詳細に語っている。巻末に「リヒルト・シュトラウスがカール・ベームにあてた遺言」を収録している。

『カール・ベームの芸術とレコード』野崎正俊 編、芸術現代社、1982 (シリーズ 音現ブックス; 特別号) (762.34/188 県立書庫 21943154)

ベームの業績をまとめた一冊。ベームと親交の深かった二人の歌手が思い出を語り、ベームの最後のインタビューが収録されている。レコードによるベームの再探求として「全曲批評付完全ディスクグラフィ」を掲載するほか、資料として日本公演全記録をはじめとする公演記録を収録している。

『ウィーンフィルハーモニーとザルツブルク モーツァルトの都市』オットー・ビーバ 著、芹沢ユリア 訳、文化書房博文社、1983 付:カール・ベーム博士に捧げるレクイエム  
(764.3P/29 県立書庫 12661120)

ウィーン・フィルハーモニーとザルツブルク音楽祭の足跡をまとめている。巻末にカール・ベームの死去に伴いまとめられた追悼記事がある。

CD

『カール・ベーム・イン・ドレスデン VOL. 1』 IRON NEEDLE 1995  
( CD10/ワーク 音楽・映像コーナー 41155805)  
ジュゼッペ・ヴェルディ作曲「アイダ. 前奏曲」ほか、ザクセン国立管弦楽団

『ベーム:序曲集/モーツァルト』 Deutsche Grammophon 2006  
( CD10/モーツ 音楽・映像コーナー公開 41261322)  
W. A. モーツァルト 作曲、ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団ほか

LPレコード

『歌劇「影のない女」全曲』 LONDON 1956  
( CLP15/M2852/5 視聴覚資料・書庫 40095168)  
リヒャルト・シュトラウス作曲、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン国立歌劇場合唱団

『交響曲第5番ハ短調 作品67 <運命> / 交響曲 第2番 ニ長調 作品36』  
Deutsche Grammophon 1970 シリーズ: ベートーヴェン 交響曲全集  
( CLP11/280/5 視聴覚資料・書庫 42033688)  
ルートウィヒ・ヴァン・ベートーヴェン作曲、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

レーザーディスク \*貸出不可(館内視聴)

『歌劇「フィデリオ」全曲』 ポリグラム 1997 収録:1970年 字幕:日本語 112分  
( LD76.2/336 視聴覚資料・書庫 常置 41072810)  
ルートウィヒ・ヴァン・ベートーヴェン作曲、カール・ベーム指揮、

『歌劇「フィガロの結婚」全曲』 POLYDOR RECORD 1991 音声制作:1975年12月 ウィーン、映像制作:1976年6月 ロンドン 182分  
( LD76.2/490 視聴覚資料・書庫 常置 41167990)  
W. A. モーツァルト作曲、カール・ベーム指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

DVD \*貸出不可(館内視聴)

『ベーム/ウィーン・フィル 1980年日本公演』 NHKエンタープライズ 2006 111分  
(DV76/エヌエ 音楽・映像コーナー 常置 41310277)  
カール・ベーム指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、(NHKクラシカル・シリーズ)  
収録曲:ベートーヴェン作曲<<交響曲第2番 ニ長調 Op. 36>><<交響曲第7番 イ長調 Op. 92>>1980年10月6日、昭和女子大学人見記念講堂におけるライブ収録。  
※『ベーム/ウィーン・フィル 1977年日本公演』、『ベーム/ウィーン・フィル 1975年日本公演』も有。

使用機材

スピーカー : TANNOY CANTERBURY15      コントロールアンプ : Accuphase C-200X  
プレイヤー : KENWOOD KP9010      パワーアンプ : marantz SM6100SA

